【研究内容　学級活動（下学年）】

多様な他者との協働を通して，自己有用感を高める学級活動
～「できた」「楽しい」を味わい，協力しあう子どもを目指して～

岩手県洋野町立宿戸小学校
教諭　深澤　好花

１　主題設定の理由

本実践は，洋野町立大野小学校３年生で行った実践である。本学級の児童は，２，３年と持ち上がりで担任をした。優しく思いやりのある子が多く，新しいことにも進んで取り組もうとする学級であった。しかし，自分たちで考えて行動したり話したりすることが苦手な子が多く，話す時には台本やシナリオがないと全体の場で発表をすることができない児童が多くいた。そのため，３年生では，今までの自分を超えていけるように，また，授業や行事などに友だちと協力しながら取り組んでいってほしいという願いを込めて「Plus Ultra～協力，強力～」という学級目標を設定した。更に自分を超えるためにどうすればいいのか自分たちで考えるよう学級での実践を工夫した。実践では，自分たちで取り組むことで「できた！」という達成感を味わわせていきたいと考えた。その中で，友だちと協力しあう経験から自分の居場所づくり，仲間づくりにつなげていきたいと考えた。

２　実践の概要

実践１　「できた！」につながる楽しい係活動

学級の児童が２年生の時は，係活動で当番的活動を含む内容に取り組んだ。当番的活動には電気係，黒板係など「学級で誰かがしないと困る活動」を設定した。毎日１回決められた活動をするため，学級にとってなくてはならない大切な仕事ではあったが，新しく自分たちで考えて取り組み内容を工夫していることが難しく，自分事として活動を進んで行う姿にはつながらなかった。

そのため，３年生では係活動と当番活動を明確に区別して取り組むことにした。当番活動は「学級で誰かがしないと困る活動」，係活動は「学級のみんなを楽しませる活動」として子どもたちに提示した。新しい活動に張り切って取り組もうとするが，最初は係活動で何をすればよいか迷う子がほとんどで，楽しい活動にするまでには至らなかった。学級のみんなを楽しませる係活動で何をすればよいのかが分からない様子だった。

そこで,「自分が好きなことを友だちと一緒に楽しむ活動」に目を向けさせ,係活動の在り方を変更した。他の学年の係活動を教えてもらったり,自分の好きなことは何か,その好きなことからできることは何かを友だちと話し合ったりした。

左〉恐竜係の活動の様子　　右）レク係の活動の様子

実際の活動では,自分の好きな恐竜についてイラストや新聞,化石発掘体験などを通して紹介する恐竜係や,好きなユーチューブ

について漫画を使って紹介する新聞係，工作が好きな子は誕生日の子に段ボールで作ったケーキをプレゼントしたり，オリジナルゲームで楽しませたりするお誕生日係等と子どもたちが自分で考えて工夫するようになり，活動の幅が広がった。係活動では，自分自身が楽しむことが学級のみんなを楽しませることにつながり，また，活動の継続につながる。自分が好きなことを友だちに認めてもらえたり一緒に楽しんだりすることで，自分を認め他者を認められるようになっていった。

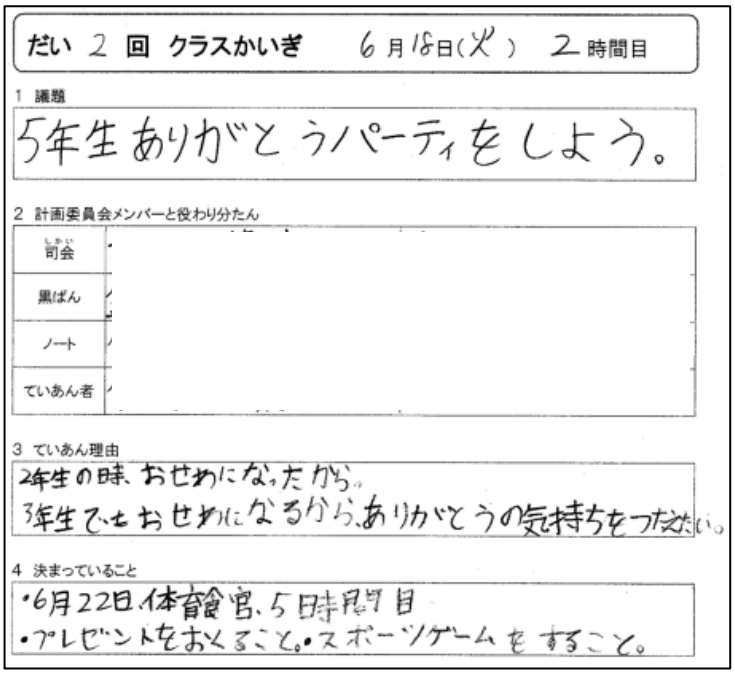
学期末には係活動を振り返る時間を設定し，自分の活動が学級にどのように影響しているのかを考えるようにした。係活動で取り組んだことの成果や課題，他の係の成果や課題を振り返ることで，自分たちの活動が学級にとって必要な活動であることに気付いたり，友だちから認められたり，活動が自信につながったりとプラスに働いた。友だちの活動が参考になり，次にやってみたいことを考える時間にもなった。活動していない係には新しく学級のみんなでアイデアを出し合い，よりよくしていくにはどうしていけばよいのかを話し合った。

また，係活動の内容を学級通信で家庭に知らせるようにした。学級通信に「3年生の日常」のコーナーを作り，日々取り組んでいる係活動の内容や学級の出来事・ニュースなどを掲載した。学校での活動を家庭での話題にしてもらうことで，係活動への理解を得るとともに，子ども自身の活動を認めてもらったり，活動への新たなヒントをもらったりすることができた。期末面談や授業参観等で，学級にある係活動の様子を見て，家庭で話していたことがつながり，子どもの頑張りを認め，褒めることにつながっていた。

係活動を通して，自分自身の活動が学級にとって必要な大切なものなのだと気付くことや認められることが，自己有用感を高めることにつながる。さらに，成功体験だけでなく失敗体験も積み重ねていくことで，失敗を恐れずに繰り返し挑戦しようとする気持ちが高まり，創意工夫のある活動につながった。

実践２　特別活動（２）話合い活動の活性化

学級に特別活動掲示板を設置した。掲示板には，係活動の取り組み，話合いの仕方や計画委員の仕事内容，提案ポストなどを設置した。提案ポストは，学級で話し合いたいことがある時に自由に書き込み投函することができる。提案ポストの中身は輪番制で決まった計画委員が１か月に一度中身を確認し，提案ポストの中からその月に学級会で話し合う議題を決定する。


だい 2 回 クラスかいぎ　6月18日(火)　2時間目

1 議題

5年生ありがとうパーティをしよう。

2 計画委員会メンバーと役わり分たん

司会	
黒ばん	
ノート	
ていあん者	

3 ていあん理由

2年生の時、おせわになったから。
3年生でもおせわになるから、ありがとうの気持ちをつたえたい。

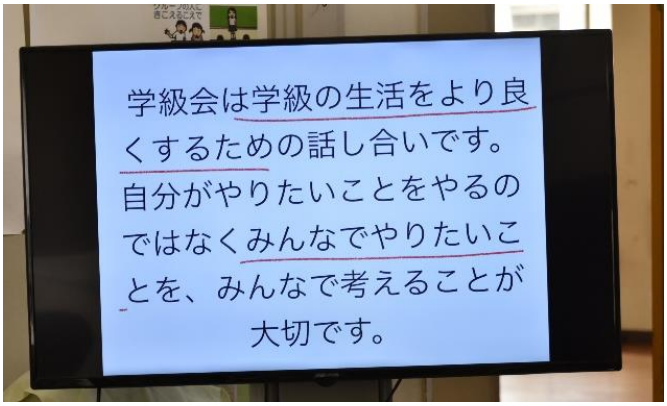
4 決まっていること

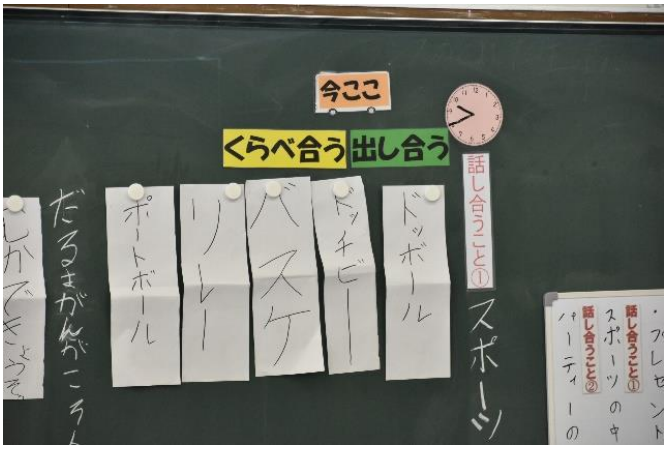
・6月22日 体育館 5時間目
・プレゼントをおくること。・スポーツゲームをすること。

本議題は，学級に設置していた提案ポストに議題案として挙がっていたものである。「なかよし学級」として，３・５年生が割り当たっているが，３年生から遊びの計画や行事終わりのお疲れさま会を企画したことがないことから，感謝の気持ちを込めて「３年生からも５年生にありがとうの会をしたい」という思いが徐々に高まり，議題として選定された。ありがとうパーティーを通して，自分や友だち，５年生のことを深く知り，やり遂げた成就感をもたせたいと考え議題に設定した。また，ありがとうパーティーの実践を通して協力することの大切さを味わい，学級の所属感をさらに高めていきたいと考えた。

話合いをする前に「お互いの意見を大切にしよう」「みんなで話合いを進めよう」と子どもたちと共通確認した。みんなで話し合う大切さについても全員で考え，意見を交流し合った。

話合いでは，今までに学習した学級会での話し方を取り入れながら進んで発言する子が多く，自分たちの活動という意識が高まっていた。計画委員を中心に全員の意見を取り入れようとするが，自分の意見を優先したいと思う子もいて話合いをまとめることが難しい。そこで，折り合いのつけ方については教師が助言を行い，１度にすべての活動を取り組むことは難しいことを伝えた。議長から，違う機会にみんなの出してくれた意見を取り入れた活動をしていきたいという提案があり，全員の意見を，様々な形で取り入れながら実行していくことに決まった。一人一人の意見を大切にすることで，全員が納得する結論とすることができた。





ありがとうパーティーでは，当日に向けて係分担をして準備を進め，実践をすることができた。話合いで決定したことに基づき，分担した役割ごとに協力して活動できるように，子どもの自主性を尊重しながら進めたことで，より自分たちの活動という意識が高まった。パーティーでも，友だちと協力しながら子どもたちだけで進めることができた。自分の意見が採用され

なかった子も，他の機会で取り入れることから楽しく活動に参加することができた。活動後は振り返りをして「今後につなげていきたいこと，直していきたいこと」の観点で見直し，活動を１回の話合いで終わらないようにした。この学級会の経験から次の学級会でも，自分の考えに折り合いをつけながら話合いを進める姿につながった。さらに，一人一人の意見を尊重し，全員が学級会に必要なこと，どの子も自分の意見を話していいことが自然と子どもたちに浸透していった。

学級会を通して，自分の考えに自信をもって発表できるようになった子が多くいた。自分の考えを受け入れてくれるという雰囲気が，子どもたちの自由な話合いにつながっている。自分事として捉え，自分たちの生活をよりよくしていくためにどうすればよいのかを具体的に考えることができるようになっていった。学級会だけでなく，他の教科で話し合う場面でも，互いの意見を尊重しあう姿が見られるようになった。

洋野町立大野小学校３学年通信　令和元年６月２７日(木)　No.３４号

Sunflower

５年生ありがとうパーティーをしました!!

６月26日(水)の５時間目に，５年生へ日頃の感謝を伝えるために「５年生ありがとうパーティー」を行いました。パーティーの内容や係をすべて自分たちで話合い，決定し，実際にやってみました。

内容は，リレーとドッチボールです。パーティーを成功させるために係を分担し，司会係・プレゼント準備係・ルール説明係・案内準備係を自分たちで決め，活動しました。実際にパーティーをするまでに，実験や星休みを使ってたくさん準備をしてきました。

一人一人が自分のやるべきこと，５年生を楽しませることを考えてパーティーを進めた結果，最後には３年生も５年生も「笑顔」になっていて，お互いの仲が深まったように感じました。これからも，他学年とのかかわりを大切にして行きたいです。

３　成果と課題

実践１では，

〇係活動を自分で計画し，実施，振り返りをすることで「できた！」が増え自信につながった。友だちの活動に参加することで，友だちから喜ばれたり褒められたりすることで自己有用感を高める実践になった。

〇係活動の在り方を子どもたちと一緒に話し合うことで，活動を自分事として捉え，学級をさらによりよくしていこうとする気持ちが高まった。

〇係活動を楽しみながら活動をすることで，活動の継続につながる。学期ごとに振り返りを行うことで，活動の見直しにつなげることができた。

△係活動の時間の確保が難しい。休み時間や放課後の時間を使って活動するため，高学年で同様の活動を実践していくことは難しいと思われる。

実践２では，

〇輪番制の当番で計画委員を決めて学級会を運営していくことで，話合いの仕方を学級全員が理解することにつながった。

〇話し合う時に市販のワークブックを活用することで，指導や助言の方法に見通しをもつことができた。

〇自分たちで計画から実行，振り返りまで取り組むことで，学級会を運営することができるという自信につながった。

△個人差に応じて，学級会の進め方を繰り返し積み上げていく必要がある。また，児童の発達段階に考慮し，年間指導計画を生かした縦のつながりを見直し，改善していく必要がある。